

2025 年度 第 1 回 学校関係者評価委員会 議事録

項目	内容
会議名	学校法人 YIC 学院 YIC 情報ビジネス専門学校 第 1 回 学校関係者評価委員会
日時	2025 年 10 月 21 日(火曜日)14 時 00 分～
場所	2 号館 1 階 学生ホール、オンライン
出席者	福本 百合江、高村 奈生人、阪上 誠、阿部 誉久(団体)、臼渕 厚史、兼重 顕治、中野 園子、井ノ上 隆志、河津 道正(校長)、小田 政江(副校長)、日當 泰浩(事務長)、森野 茂弘(教務課長)
欠席者	阿部様は本日欠席だが、事前にご意見をいただいている。
議長	臼渕 厚史様

1. 開会および校長挨拶

会議は 14 時に開始され、2025 年度第 1 回学校関係者評価委員会が開催された。

河津校長より挨拶があり、学校基本法の改正に基づき、専門学校においても開かれたガバナンスを確保するため、今年度から委員会を年 2 回開催することになった旨が説明された。本日は今年度の中間報告(4 月～9 月/10 月まで)を行い、次回の年度末には 1 年間の報告と次年度に向けた取り組みを報告する予定である。専門学校に求められるベーシックなもの、時代に応じて変わっていくものがあるため、委員各位の知見を学校教育に活かしたい、との要望があった。

2. 議長選出

教務課長より議長の選出について諮られ、臼渕 厚史様が推薦され、議長に就任された。

議長より、冒頭で女性初の内閣総理大臣が選出されたとの速報が流れたことについて触れられた。

3. 中間報告(2025 年度の取り組み)

報告に先立ち、成績評価に使用される GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度について説明が行われた。

成績評価は 5 段階(秀、優、良、可、不可)で行われ、それぞれ GP(4, 3, 2, 1, 0)が対応する。GPA は、この GP に各科目の単位数を乗じ、それを履修登録総単位数で割ることで算出される。一般的に大学等では平均値が 2.3 から 2.8 程度であるとの補足があった。

3-1. 情報工学科

1. 教育課程の実施状況:

- 前期授業時間数 450 時間は計画通り実施された。
- 企業連携授業は 2 年・3 年生でそれぞれ 1 科目 4 時間実施。
- 実務家教員担当授業は全体の 33%。

2. 学生の状況:

- 在籍者数 89 名。
- 前期平均成績(GPA)は算出中だが、昨年度 1 年次は 2.26。

- 9 月末時点の就職内定率は 73%で、昨年度の 95%に比べ 20 ポイントほど低下しており、キャリアサポート室による個別対応中である。

3. 職業実践課程に係る中間自己点検(前期の検証):

- 教育課程・指導:実習授業を指導できる教員が不足しており、教員確保が急務である。
- 連携体制:良好。

4. 学校関係者評価委員への助言を仰ぎたい事項:

1, 生成 AI を活用したローコード/ノーコード分野における教育内容の最新化について、業界の動向を踏まえた意見を求めたい。

(議論:阪上様、企業関係者)

- 現状、ローコードはプロトタイプ開発や MVP 開発、ノーコードは非エンジニアによる業務アプリ作成などに使われることが多い。
- 複雑・大規模なものには向いておらず、品質のばらつきが課題であり、人手によるレビューが必須であるため、実開発現場での活用拡大には疑問符がつく。
- 教育カリキュラムへの提言: 本質的な技術(アルゴリズム、設計力)の習得は不可欠。ローコード/ノーコードはあくまで補助的な位置づけとし、以下の 3 本柱を推奨する。
 1. ノーコードでの簡易アプリ作成体験。
 2. ローコードでのプロトタイプ開発体験。
 3. AI 活用の限界とリスクに関するディスカッション(リテラシー)。
- また、自然言語で意図を正確に伝える力(プロンプト等)も重要。

3-2. 情報ビジネス科

1. 教育課程の実施状況:

- 前期授業時間数 450 時間は計画通り実施。
- 企業連携授業として PBL(問題解決型学習)で 60 時間実施。
- 実務家教員担当授業は全体の 33%。

2. 学生の状況:

- 在籍者数 26 名(昨年度はメディアデザインコースが含まれていたため減少)。
- 就職内定率は 50%。SPI 試験対策を実施している。

3. 学校関係者評価委員への助言を仰ぎたい事項:

- PBL の主体的学習意欲向上のため、次年度導入を検討しているウェルビーイング、アントレプレナーシップ(起業家精神)演習について、導入の是非と具体的内容について助言を求めたい。
- (議論:阿部様(欠席)の事前意見)
 - アントレプレナーシップについて、山口県中小企業同友会や山口大学等との連携による特別講義も有効な手段と考えられる。
 - 起業はハードルが高いため、就職に向けた能力開発に資するプログラムと位置づけることが望ましい。

3-3. メディアデザイン科

1. 教育課程の実施状況:

- 前期授業時間数(1年 420 時間、2年 450 時間)は計画通り実施。
- 企業連携事業は2年生で1科目 60 時間実施。
- 実務家教員担当授業は全体の 27%。

2. 学生の状況:

- 在籍者数 35 名(1年生 20 名、2年生 15 名)。
- 卒業見込み者の就職内定率は9月末時点で 86.7%。

3. 職業実践課程に係る中間自己点検(前期の検証):

- 連携体制:良好。毎月1回、連携企業から学生の提案報告へのフィードバックを受けている。

4. 学校関係者評価委員への助言を仰ぎたい事項:

1. デザイン分野における教育内容の最新化について、AI の活用と業界の動向を踏まえた意見を求めたい。
2. 学生の主体的学習意欲向上のための就職内定後の学習プログラム(生成 AI 検定対策等)について、効果的なプログラムがあれば助言を求めたい。

(議論:高村様、卒業生代表、企業関係者としての意見)

- デザイン/AI: 現場では Canva のような手軽なデザインツールを利用することが増えている。AI 活用は業界によって差があり、建設業などのバックヤード業務ではセキュリティリスク等から活用が進んでいない現状がある。
- 内定後学習: 学生が意欲があれば生成 AI 検定等を受験することは知識として損はない。しかし、AI 分野は変化が激しいため、専門的な学習プログラムは入社後でも問題ない。
- 学校側の補足: Adobe 製品に加え、Canva を授業に取り入れ始めている。生成 AI パスポート(ビジネス分野向け、エンジニア向けではない)の受験カリキュラムを導入する予定である。

(議論:福本様、保護者代表、企業の経営者としてご意見)

- 学生の力を借りて、広告やデザインの作成に苦労している中小企業を支援する授業の取り込みを提案。
- (学校側回答) 学校としてはウェルカムである。すでに航空自衛隊のロゴマーク作成や山口南警察署の動画編集などの地域連携に取り組んでいる実績がある。ただし、プロほどの納期(1週間)は難しく、1~2ヶ月の猶予が必要。

3-4. ホテルブライダル科

1. 教育課程の実施状況:

- 前期授業時間数は計画通り(1年 420 時間、2年 670 時間)。
- 実務家教員担当授業は全体の 70%。
- インターンシップ・外部実習は計画通り 540 時間実施済。

2. 学生の状況:

- 平均成績(GPA)は1年生 3.06、2年生 3.00 で、非常に優秀な成績である。
- 就職内定率は9月末時点で 89%。

3. 職業実践課程に係る中間自己点検(前期の検証):

- 教育課程・指導:計画通り。連携企業より実習について総合 92 点と高評価を得た。
- 施設・設備:一部改善が必要。教室の稼働率や実践的な授業展開に必要な施設がない。後期開始までにホテルバンケットを想定した設備の整備計画を立てる。

4. 学校関係者評価委員への助言を仰ぎたい事項:

1. ホテル・観光・ブライダル分野における教育内容の最新化について、業界の動向を踏まえた意見を求めたい。
2. イベントプロデュース授業について、どのように企業と連携を進めるべきか意見を求めたい。

(議論:日岡様、企業関係者)

- 最新化/業界動向: 顧客のニーズは多様化しており、現場では常に最新の対応が求められている。
- インターンシップ: 理想と現実のギャップを埋めるため、長期的なインターンシップ(最低 2 週間、できれば 1 ヶ月程度)が推奨される。5 日間のインターンシップでは部門ごとの実態把握が困難である。
- 実習時期/形態: 入学後半年ほど授業を積んでから実習に行くのが適切である。また、細切れに部門別(例: フロント 3 日、バンケット 3 日)の臨地実習をサイクル的に繰り返すことが、学生の学習にとって意義がある。
- イベントプロデュース: 導入は素晴らしい。学生がアイデアを出す前に、企業の現場(新郎新婦のニーズ)のリアルな意見を共有する場を設けることが重要である。

3-5. 医療事務学科

1. 教育課程の実施状況:

- 前期授業時間数は計画通り実施。
- 実務家教員担当授業は 20%~24%。
- インターンシップは 2 年生が就職活動として実施済(1 年生は後期に実施予定)。

2. 学生の状況:

- 在籍者数 22 名。
- 就職内定率は 9 月末時点で 18%。10 月以降に企業実習(就職活動)が本格化する。

3. 職業実践課程に係る中間自己点検(前期の検証):

- 連携体制: 良好。業界研究として医療機関を招いての説明会を実施したことが、インターンシップ参加学生の増加につながっている。
- 施設・設備: 一部改善が必要。教室の机が一脚破損しており、後期早々に修繕予定。

4. 学校関係者評価委員への助言を仰ぎたい事項:

1. 医療 DX が進む中、今後の DX 化における医療人材の動向について意見を求めたい。
2. 次年度導入を検討しているホスピタルコンシェルジュ科目の内容(患者対応、医療保険知識、療養担当規則)について、その他患者対応に必要な点について助言を求めたい。

(議論:兼重様、企業関係者)

- 医療 DX/人材動向: 診療報酬や介護報酬の改定は物価高騰に対応できておらず、厳しい状況にある。DX 化の狙いは医療費の無駄遣い削減(例: マイナ保険証による重複処方の防止)にあり、今後はデータ活用を根拠としたものの考え方ができる医療事務人材が必要となる。
- ホスピタルコンシェルジュ: 高齢患者が多い地域(特に山口県)では、アナログな対応も依然として重要である。ロールプレイング形式で、患者ごとの特徴(年齢、病気、家族背景など)を踏まえた対応力を身につけることが非常に重要。また、医療事務員として言うてはいけないこと(例: 病気の治癒を保証すること)など、基本的なルールと発言の境界線を教える必要がある。

3-6. ペット総合学科

1. 教育課程の実施状況:

- 前期授業時間は計画通り実施。
- 実務家教員担当授業は 85.1%。
- インターンシップは 30 時間実施。

2. 学生の状況:

- 在籍者数 40 名(3 名退学済)。
- 就職内定率は 9 月末時点で 57.1%(昨年度 0%から大幅に改善)。

3. 職業実践課程に係る中間自己点検(前期の検証):

- 連携体制:良好。前期授業開始前の 4 月 1 日に企業とのミーティングを実施した。
- 施設・設備:一部改善が必要。教室の空調機器が不具合のため、次年度に改善予定。

4. 学校関係者評価委員への助言を仰ぎたい事項:

1. 保護者からペット業界のこれからの方向性について意見を求められることが多いため、業界動向について意見を求めたい。
2. 専門知識以外の分野で現場が求める知識(パソコンスキル、対人マナー、電話対応など)について意見を求めたい。

(議論:中野様、企業関係者)

- 業界の方向性:犬の飼育数は減少し、猫の飼育数が横ばいか増加傾向にある。サービスは多様化しており(フード、サプリメント、保険、しつけ教室、ホテルなど)、今後も広がる可能性が高い。
- 専門知識以外のスキル:卒業生はよくやってくれている。職場によって必要なスキルは異なるが、入ってから学ぶことも多い。最も重要なのはコミュニケーション力であり、知識がなくても熱意があれば吸収できる。実習は、入社後の「思ったのと違う」というギャップによる離職を防ぐために非常に大事である。

5. 閉会

2025 年度の活動中間報告はすべて終了した。

6. 連絡事項

- 次回、第 2 回学校関係者評価委員会の開催予定日時は、2026 年 3 月 17 日(火曜日)である。
- 次回は年度末報告と次年度の取り組み発表を行う。

第 1 回学校関係者評価委員会は閉会した。